

申3号 2022年度夏季手当等に関する申し入れ

団体交渉を行う！ その①



組合側の趣旨説明

- 2021年度期末決算はJR東日本の決算に大きく影響を受けて「減収減益」となったが、通期予想での当期純利益は△1億9500万円から大幅に改善した△2500万円の実績だった。2022年度は黒字決算予想であり、業績の回復が見込まれている。
- 会社施策は矢継ぎ早に実施され、「サポートコールシステム」が拡大。被制御駅の要員見直し、制御駅の対応駅拡大が生じて様々な問題が起きている。「話せる指定席券売機」の拡大により、案内にも苦慮しながら、「お客さまにやさしい駅」を目指して組合員一人ひとりが積極的な案内をしている。3月に発生した福島県沖地震では、お客さまに丁寧な説明や案内を心がけてきた。日常的に発生する異常時対応にも努力してきた。
- 組合員一人ひとりの業務量が増加している中でも安全を第一に品質の高いサービスの提供を通して、信頼される企業づくりに努力してきた。
- 相次ぐ値上げラッシュによって、私たちの生活はより苦しくなっている。今秋も物価上昇が予定されており、「これ以上の物価上昇では生活していけない」という不安の声が高まっている現状だ。
- 給与が上がらなければ、これまで以上に転職や退職者が増加することが懸念される。世代交代が急がれる状況下で、人材の確保と定着は労使の共通認識である。
- 新型コロナウイルス感染症拡大から2年以上が経過し、最近では旅客流動が確実に増えている。コロナ感染拡大の初期段階から感染防止対策を講じ、自己管理を徹底してきた。感染リスクは未だに続いている。特別手当を支給するべきだ。
- 福利厚生がしっかりとしている会社は魅力的である。モチベーション向上の観点からJESSポイント50000ポイント付与を要求する。

**満額回答を
強く求める！**

会社側の考え方

- ◆ さまざまな取り組みと努力をして頂いたことに感謝申し上げる。
- ◆ 新型コロナウイルス感染症は、過去最高の感染者数のなか、クラスターを出さないように感染対策に取り組んでいただき感謝申し上げます。
- ◆ 2021年度期末決算は減収減益。JR東日本の連結決算は過去2番目に低い営業利益であり、コスト削減が求められる状況だ。
- ◆ 当社で働いてよかったと感じられる会社をつくっていく。
- ◆ 夏季手当については、極めて慎重な判断をしていく。
- ◆ 組合と真摯に議論して決定していく。

**労働組合として、仲間の雇用と生活を守るために
満額回答に向けて、共にたたかおう！！**